

【様式】

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名（特別支援学校北勢きらら学園）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○児童生徒一人ひとりが、快適に学び、確かな成長・発達を遂げ、それぞれの個性に応じた自立と社会参画が実現できるように支援する学校
		○特別支援教育の専門性の向上を図り、地域におけるセンターとしての機能を発揮できる学校
(2)	育みたい児童生徒像	○「なりたい自分」や「将来のあるべき姿」を思い描き、その実現に向けて、人とつながりながら学ぶことができている ○社会の一員として地域で生活するために必要な知識・技能を身につけることを意識して、学習活動を行うことができている
	ありたい教職員像	○児童生徒・保護者の教育的ニーズや願いを把握したうえで、発達段階に応じた指導・支援ができている ○保護者や医療機関等と連携を図り、児童生徒の安全と健康を意識し、児童生徒の立場に立った指導・支援ができている ○校内研修や自主研修の場を通して、肢体不自由教育に関する専門性を高めている ○同僚性の高い職場で、互いに学び助け合いながら教育活動を行うことができている

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><児童生徒> 安心して楽しく学習できる環境の中で、わかる授業など教育活動の充実 卒業後の自立と社会参画に向けて、必要な知識・技能の習得</p> <p><保護者> 安全な学習環境の中で、一人ひとりのニーズに応じた丁寧な指導・支援の実施 自己実現と社会参画につながる知識・技能を身につけ、個々の状況に応じた進路の保障</p> <p><地域> 地域活動への積極的な参加による連携の強化と、地域の防災拠点としての役割</p>	
	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p><保護者> 児童生徒一人ひとりを大切にした指導 家庭との信頼関係の構築</p> <p><福祉・行政・医療関係機関> 自立と社会参画に向けての指導・支援の充実と、保護者との連携、情報提供</p> <p><地域> 地域活動への参加と施設設備の開放、避難施設としての受け入れ態勢の整備</p>	<p><保護者> 教育活動への参画と連携・協力体制 自立と社会参画に向けた連携</p> <p><福祉・行政・医療関係機関> 進路先の開拓及び支援と福祉施設や就労先への指導・支援、健康管理のアドバイス</p> <p><地域> 教育活動への理解と協力 教育活動の場、交流教育の機会の提供</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン教育を進めるにあたっては、家庭と学校をつなぐ方法だけでなく、校内での活用をさらに広げながら他グループや他学部との交流を図るなどを工夫する。 ・コロナ禍において、学校間や居住地校交流など、地域の学校との交流について、どのような内容・方法であればできるのかを検討し、相手校との調整・準備を行う。 ・休憩時間に会議が入ることがあるため、会議の在り方や進め方について改善を図る。 ・引き続き、日中の災害（火災や倒壊等）を想定した訓練を行う。 	

(4)現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいの重度・重複化、多様化が進んでいることから、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育実践を行うため、医療や福祉などの関係機関との連携・協力体制を強化するとともに、肢体不自由教育に係る専門性及び授業力の向上が必要である。また、オンラインを活用した授業の実践を進める必要がある。 ・自立と社会参画を目指して、卒業後の生活を見据えた教育活動を進めるとともに、コロナ禍において共生社会を実現するため交流及び共同学習の方法や内容を工夫する必要がある。 ・特別支援学校のセンター的機能を発揮するため、実践事例等の発信や研修機会・指導・支援のノウハウの提供など、内容や方法を工夫しながら情報発信を進める必要がある。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスへの意識を高め、互いの気づきを積極的に共有することにより、教職員一人ひとりが安全で安心して職務を遂行できる職場環境づくりを進める必要がある。 ・防災や感染症など教職員の危機管理への意識向上を図り、児童生徒・保護者にとって安全安心な学校運営を進める必要がある。 ・地域に開かれた学校づくりを進めるために、ホームページを活用した取組の紹介など、内容や方法を工夫して積極的に情報を発信する必要がある。 ・授業の準備や多様な会議の実施など、学校運営に係る内容や方法等を工夫して業務の精選を図り、教職員の多忙感を解消する必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業実践を進めるとともに、発達段階に応じて共に学び合うキャリア教育の視点を取り入れた教育内容の充実を図る。 ・教員の肢体不自由教育に係る専門性の向上を図り、実践事例や指導・支援のノウハウなどの情報を発信するなど、センター的機能の充実を図る。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・医療や福祉などの関係機関や地域と連携・協力し、児童生徒に安心安全な環境づくりを進めるとともに、防災機能の強化や情報管理、感染症対策など教職員の危機管理への意識向上を図る。 ・教員一人ひとりが、自分が持てる力を発揮し、互いに知識・技能を共有し合える関係づくりを進めるとともに、校務分掌や会議等を見直し、総勤務時間の縮減に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
一人ひとりのニーズに応じた授業実践とキャリア教育の推進	<p>○肢体不自由教育に係る基礎知識・技能の定着と専門性の向上を図るとともに、共に学びあう関係づくりを意識した校内研修をとおして授業力の向上を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善シートを活用した計画及び実践(各学部、学期1回) ・外部講師を招聘した授業研究と振り返り(年間2回) ・摂食、機能訓練など基本的事項を踏まえた研修の実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組評価アンケートにより、成果が見られたと回答した教職員の割合:80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善シートを刷新して、児童生徒の実態に応じて課題を抽出しやすいよう工夫した。 ・摂食指導や機能訓練などの基本的な内容と、人権的に児童生徒理解につながる内容に係る研修等を実施した。自らの言動を振り返るとともに、教育や関係性等について改めて考える機会となった。外部講師を2回招聘し、授業改善に取り組むとともに、授業実践を冊子にまとめ、研修会等で活用した。 <p>※十分に達成した[職員満足度調査:80%(学習指導、協力体制)]</p>	◎
共生社会の実現に向けた交流及び共同学習の実施	<p>○児童生徒・保護者のニーズを把握し、相手校と連携・協力して、コロナ禍においてできる交流及び共同学習の内容や方法を工夫する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手校と内容や方法についての情報交換を進 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、有意義な交流学習となるよう相手校と丁寧に連絡を取り合い、方法を検討した。手紙やベルマーク集め、千羽鶴・クリスマスオーナメントなど 	※

	<p>め、新たな形での交流及び共同学習の実施</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな形での交流及び共同学習の実施:相手校の了解のもの随時実施 	<p>の間接的な交流を進めた。</p> <p>※概ね達成[方法・内容の工夫:相手校にベルマーク集めを依頼して本校へ送るといった生徒のアイデアを実現]</p>	
<p>人権と命とを大切に 教育の実施</p>	<p>○人権と命を大切に する教育を組織的に 実施する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部において、 命について学ぶ機会 を実施 ・児童生徒会での 子どもの主体的な活動 への支援 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命に関する授業の 実践事例の共有と意見 交換:随時 	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生会を実施して、 友だちの成長を祝うと ともに、相手を思いやる 大切な機会とした。また、 環境学習等をとおして、 自然・社会・人との関わり を考える学習などに 取り組んだ。 <p>※十分に達成[各グループで 実施、事例を学部会等で 共有]</p>	

改善課題

・新型コロナウイルス感染症への対応が長期化する中で、授業は内容や方法を工夫してきたが、校外学習や行事などは感染症への心配から消極的になり実施できないことが多かった。来年度は、オンラインを活用した行事の推進や公園など感染症の心配が少ない場所への校外学習の実施など、具体的に計画を進める必要がある。

・研修については、オンラインを活用した講演会の実施や全国の研究発表会への参加など、教職員が専門性の向上を図ることができる機会をできる限り提案するとともに、授業実践などお互いの取組を紹介して深め合える機会を作る必要がある。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>危機管理意識の向上</p>	<p>○防災機能を強化し、非常時における地域や校内での連携・協力体制を整備する。また、感染症予防に対する教職員の意識向上及び対策の充実を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な避難訓練と県地区との情報交換 ・防災マニュアルの見直し ・感染症に係る対策案の見直し <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施回数:3回以上 ・感染症対策に係る保護者等への周知:随時 <p>○学校信頼向上委員会などを活用して、全教職員のコンプライアンス意識の徹底を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員による「教職員の不祥事防止のためのセルフチェックリスト」を毎学期実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期首面談等でのコンプライアンスを話題とした意見交換の実施:随時 <p>○緊急対応および事故の未然防止のための取組を進める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒について情報共有する機会の設定 ・緊急対応訓練の実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医バック委員会の実施(毎月)と緊急対応訓練(全校訓練1回+個々訓練+心肺蘇生・AED講習)の実施による安全体制の確認:随時 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルを見直した。地域との合同避難訓練は中止したが、校内の避難訓練(地震による避難1回、起震車体験は中止、教室で地震の動画を視聴)は実施した。 ・感染症対策を見直し、年3回保護者に周知した。各教室にチェックリストを掲示することで、教職員が意識して実行できた。 ・全校で緊急対応訓練を2回実施した。動きを確認したうえで、予測される事態を踏まえ対策を検討した。 ・セルフチェックリストを四件法方式に改訂し、課題を洗い出して対応した。 <p>※概ね達成 [年間計画に基づき、訓練等を随時実施]</p>	◎
<p>情報提供による信頼の構築</p>	<p>○ホームページ等を活用して、積極的に特色・魅力ある教育情報を発信する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信等のホームページへの掲載やコロナ禍における活動に関して報道などへの情報提供 <p>【成果指標】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校通信や感染症対策等を随時ホームページに掲載した。また、感染症及び積雪による臨時休業時にはオンラインによる「きらりんチャンネル」を開設して発 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを閲覧した保護者の割合 60%以上 	<p>信した。 ※あまり達成できず[回答のあった保護者の閲覧状況:48%]</p>	
働きやすい職場環境づくり	<p>○校内体制や教職員一人ひとりが、業務内容を見直して改善を図ることにより、生き生きと仕事ができる環境づくりを進める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定日に定時に退校した職員の割合 80%以上 ・放課後に開催して 60 分以内に終了した会議の割合 80%以上 ・ノー会議日・定時退校日(月1日)及び学校閉校日(8月、1月に計3日間)の設定 ・管理職と教職員間での意思疎通の機会を設定 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間 360 時間を超える時間外労働者数0人 ・月 45 時間を超える時間外労働者延べ人数0人 ・一人当たりの月平均時間外労働 20 時間以下 ・一人当たりの年間休暇取得日数 12 日以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退校及び会議の開催時間（職員会議、学部会、分掌会等）は、概ね 80%以上達成することができた。 ・学校信頼向上委員会を開催し、「風通しの良い職場にするために」をテーマとして、強みや弱み、普段感じていることなどを 10 名程度の少人数で意見交換をした。 <p>※あまり達成できず[過重労働については、一人当たりの月平均 20 時間は達成しているが、「年間 360 時間」「月 45 時間以上」延べ0人は未達成。業務分担など、対応の検討が必要。年間休暇取得は達成]</p>	◎

改善課題

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、地域とのつながりについて地域施設への定期的な作品展示など、新たな取組を考える必要がある。
- ・防災・感染症・医療的ケアを含めた緊急対応など、予想される状況を多角的にとらえながら、引き続き定期的な訓練を実施して非常時に備える必要がある。
- ・校内体制の見直し、業務や会議の精選などにさらに努め、過重労働の削減に努める必要がある。また、役割分担や業務の分散など、担当制から協働した取組へと方法を意識的に変える必要がある。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の安全安心な環境と、教職員が働きやすい職場づくりを、引き続き取り組んでほしい。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、活動を制限したことについて、改めて現状を把握し、具体的な手立てを講じてほしい。 ・普通の授業の内容や方法の工夫など、互いに情報を共有し高め合える関係づくりをさらに進めてほしい。 ・学校としての考えを保護者に明確に伝え、子どものことについて連携・協力できる体制をさらに強化してほしい。
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの関係づくりを進めるために、グループ・学部・全校など集団活動が可能な内容や方法を検討して具体的に実施する。また、コロナ禍でできなかった校外学習やプール、行事などについても、引き続き検討を重ね、できるところから実施する。 ・肢体不自由教育の基礎・基本を大切にした研修等を実施することで、安全で安心な学校づくりを進めるとともに、実践事例の共有など教職員の専門性の向上を図る。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携も含めた、危機管理に関する訓練や会議等を実施する。 ・一人ひとりの教職員が普段の自分の言動を振り返り、意見交換をすることで、互いに高め合える関係づくりを進める。また、会議等の見直しも含め、業務や役割の分担等など、働き方の改善について引き続き取り組む。 ・本校の教育活動の充実を図るために、引き続き医療や福祉、有識者、地域の方などに学校運営に参画していただく機会を積極的につくる。